



西病棟の廊下



診察・治療室（円内は医務局）

病院経営の傍ら、文齋は製糸場や信用組合の設立を進めたが、本格的には明治四十四年、新城町に資本金二万円で設立した新城ガス株式会社からである。新城町及び東郷村にガス供給を行った。このガス会社に始まって、電気会社の設立、水力発電所の買収、火力発電所の建設へと進んだ。当初、電気の供給区域は、一

地域を拓く電気事業 注2

病院経営の傍ら、文齋は製糸場や信用組合の設立を進めたが、本格的には明治四十四年、新城町に資本金二万円で設立した新城ガス株式会社からである。新城町及び東郷村にガス供給を行った。このガス会社に始まって、電気会社の設立、水力発電所の買収、火力発電所の建設へと進んだ。当初、電気の供給区域は、一

私立図書館の設立

牧野図書館は、大正四年に大正天皇の即位を記念して信玄病院の一角に独力で開館された。図書館は、縦横各六間の二階建て洋風建築の書庫と、同規模の平屋建ての閲覧室があり、事務員二名を配置し、売店も備えたものであった。

こうした強力な電気事業の推進は、電気の時代を見据えた文齋の慧眼によるものであろうが、「もっと明るい診察室を作りたい」という文齋の切実な願いが背景のように思われる。

- 一九一一年（明治四十四年） 新城ガス会社設立
- 一九一八年（大正八年） 東三電気株式会社設立
- 一九二一年（大正十年） 三河陶器株式会社を買収・合併
- 一九二二年（大正十一年） 千郷火力発電所建設
- 一九二六年（昭和元年） 遠三電気と渋川電灯所を買収・合併
- 一九二八年（昭和三年） 三河水力電気と東三電気合併

牧野文齋が手掛けたガス・電気事業



信玄病院診療棟と牧野図書館

信玄病院の隆盛と町並み

明治四十一年、信玄病院を設立した文齋は、その手腕と実績からやがて「東三河の名医」の評判が高まっていった。当

時東三河地方屈指の病院としてその最盛期には、スタッフが二十名、三つの病棟には百人から二百人位の入院患者がいたようである。この頃、文齋院長の次弟熊太郎の妻が病院隣で薬局を経営し、現代の医薬分業の先駆けともなる形態を取り入れていた。

牧野文齋とは、かつてこの地の信玄病院の院長である。現在病院跡地の一角に、文齋記念公園と呼ばれる小規模な公園があり、「信玄病院跡地」の碑が建てられている。

文齋氏は、明治から昭和初期にかけて新城市の設楽原古戦場の台地で、
・ 東三河の名医として
・ 電気事業の経営者として
・ 古戦場の研究者として
幅広く活躍したこの地の巨人です。

昭和八年七月発行の『東郷村報』第十一号は、氏の業績を次のように記している。「氏は永年校医として、又伝染病医として本村のため、御活動下さった。その業たる医師の傍ら、電気会社の創立・図書館の建設等により、地方郷党の産業文化等に貢献せられたことは実に大きい。又、史学を好まれて夙に長篠古戦場顕彰会を起し、史跡保存に力を致され或いは戦史研究に意をそそがれ、多くの文献を書き遺されたと聞く。（中略）」
公私の事業に尽力せられたことは枚挙

三河の文化を訪ねて

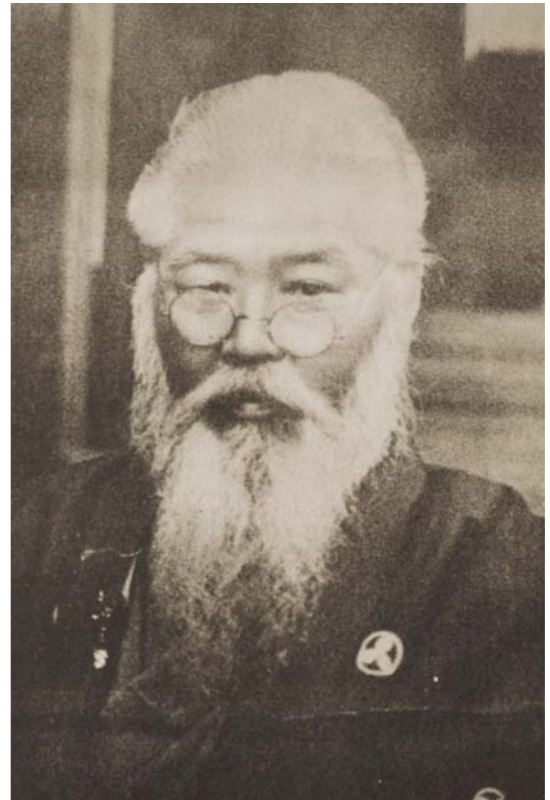
第112回

新城 信玄台地の巨人 牧野文齋

新城市立東郷東小学校長

森

誠



初代 牧野文齋



信玄病院跡地

に違がない。」
また、柳田國男は『秋風帖』（昭和十五年創元社）で「医者には昔から志の深い人がいる。長篠の牧野文齋氏のごときも、巨費を投じて熱心に郷士の書を購ひ写させている。どの位学問に近くなつたか分からぬ。是以上は単に近づき得る人の有りや無しやだけが問題である」と述べている。
このように、その幅広い業績を各方面から高く評価される牧野文齋について、資料を手掛かりに紹介してみたい。

信玄の牧野家 注1

牧野家は、文齋の祖父龍庵（一八一一〜一八八六）が、一宮村江島（現豊川市）から信玄に移り住み、「陽春堂」の名前で町医者を始めた。
文齋の父謙作（一八四〇〜一九〇九）は、若い頃蘭方医杉田玄白の弟子に学び、その後慶応三年医師牧野家を相続した。謙作は陽春堂を「牧野医院」に改名し、明治二十四年に隠居した。
その子が、ここに述べる文齋（一八六



平成10年代までの信玄病院本宅・長屋門

町十か村の約千五百世帯であったが、十年後には一万一千世帯と順調に発展していった。また、配電・配線の電気工事に使用する碍子類生産も、合併した三河陶器で行った。

図書館では、書籍を二千元（当時）で豊橋の榎本書店から購入し、さらに個人所有の古文書、一般からの寄贈や寄託のものを加え、二万冊を超える蔵書数を誇っていた。
ここには、県や郡役所などから閲覧に来る人があり、図書も無料で貸し出しが行われていた。また、有志による読書会という研究会の会場ともなり、地方文化の発展にも貢献した。しかし、諸般の事情で昭和十二年に閉館になった。文齋の死後、二代目文齋は図書の活用を考え、当時建設予定の町立図書館へ一万三千余冊を寄贈した。現在、新城市図書館に牧野文庫として収蔵されている。

古戦場の研究と顕彰

医師として事業家としての文齋が、地元の古戦場研究やその顕彰活動に関わったのには、全く異なる二つの事情があったように思われる。

一つは、自分の病院に來た人たちへの精神的サービスの提供である。著名な戦国武将の塚やそれを巡る散歩コースは現代のリハビリの一環を意図したのではなかったのだろうか。

大正四年に長篠古戦場顕彰会設立総会が花菱座で開催された。南設楽郡長を会長に、自身は副会長として、天正の戦いにおける戦没者供養、遺跡の保存、顕彰などに努める活動を行うものであった。設楽原の決戦場跡地を中心に、戦跡案内石標と武田諸將の墓碑を建立。その数は石標が四十三、碑が十一に上った。

また、昭和五年には独力で陣没者慰霊の信玄祖師堂・忠魂堂を開設した。

もう一つは、文齋の遺稿に読み取ることができると。

「予、先年（大正七年）糟糠ノ妻ヲ喪ヒ孤閨悄然、万感胸ニ迫リテ眠ズ：於此、奮然決起、筆硯ト相親ム」と。このエネルギーこそが、和紙二千五百枚に及ぶ研

究報告「長篠・設楽原」である。

この文齋の遺志は、「設楽原をまもる会」が受け継ぎ、現在も史跡に関する保存、戦没者供養、研究活動が行われている。

古戦場の顕彰に傾注する中、文齋は三つの原稿をまとめている。

- ・長篠戦史考（全一冊）：山家三方衆の由来から武田家滅亡までの戦いから設楽原決戦後の消息まで
- ・戦国時代史論（全十五冊）：応仁の乱から戦国時代の終焉まで
- ・加筆、修正を繰り返して、推敲の苦労の中、原稿をまとめあげることが終に叶うことがなかった。



出沢 馬場信房碑

信玄病院初代院長牧野文齋は、病院経営の傍ら数多くの事業に経営手腕を発揮し、晩年には古戦場の研究と顕彰に情熱を燃やし、言葉通り地元の発展に多大な功績を残した。昭和八年、多くの人に惜しまれつつ六十六年の生涯を閉じた。

文齋の死去により、その跡を継いだ二代目文齋（幸民）は、多方面で手腕を発揮した父文齋とは異なったかたちで地元の人々に大きく貢献した。

「やさしいまなざしと大きな温かい手で診察してくれたことは、今も忘れることができない。事情によっては、医療費を請求されなかった」と、当時を知る地元の人たちは語る。地域のあらゆる階層の人々に全く同じ態度で接し、その人望は格別で、昭和の「赤ひげ」先生と慕われた。



年	文齋氏の歩み
1868	明治元 現新城市八束穂で生まれる
1887	明治20 医術開業試験に合格
1891	明治24 信玄病院3代目院長を継ぐ
1911	明治44 東三電気(株)の前身、新城瓦斯(株)設立
1913	大正2 劇場の花菱座を1921年まで経営
1915	大正4 私立牧野図書館を病院の一画に開館
1917	大正6 東三電気(株)設立、牧野文齋が社長に就任
1921	大正10 三河陶器(株)を合併
1926	大正15 遠三電気(株)と渋川電灯所を合併
1928	昭和3 三河水力電気(株)が東三電気を合併
1933	昭和8 逝去

文齋没後八十四年、信玄病院閉院四十一年後の平成二十九年、「設楽原をまもる会」によって記念講演会「設楽原顕彰の恩人・牧野文齋氏を語る」が開催された。当日は、文齋の孫にあたる牧野尚彦氏（前兵庫県立尼崎病院院長）、泰之氏（前東京高検事務総長）が出席され、「設楽原をまもる会」からお二人に、「文齋氏に申し上げるべき地元としての感謝」のことが伝えられた。

注1 信長命名の信玄塚から「信玄」の地名に
注2 この時期フィラメントの改良から電気の優位が確立した

主な参考文献

『設楽原をまもる会会報29特別号』
『中部のエネルギーを築いた人々』
日本電気協会中部支部編 など